

第1回大野市通学区域審議会
会議録

日 時：令和6年6月24日（月）午後7時～午後8時30分

場 所：結とぴあ 201・202号室

第 1 回大野市通学区域審議会 次第

令和 6 年 6 月 2 4 日（月）午後 7 時～
結とぴあ 2 0 1 ・ 2 0 2 号室

1 開会

2 委員の委嘱

3 教育長挨拶

4 会長、副会長の選出

5 諮問

6 議事

（１）有終東小学校の現状と諮問に至る経緯について

資料 1

資料 3

資料 4

資料 5

資料 6

（２）審議会のスケジュールについて

資料 2

（３）意見交換

（４）その他

・ 次回開催日時について

7 閉会

<出席者>

委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員

岸 本 一 敏
植 村 秀 行
渡 辺 輝 英
北 山 紘 平
清 水 啓 宏
竹 内 由 美
明 石 和 典
広 瀬 泰 司
大 石 貴 昭
朝 日 弘 幸
木 下 一 彦
中 森 一 郎

事務局（説明者）

教育長
事務局長
教育総務課長
教育総務課学校教育審議監
教育総務課課長補佐
教育総務課課長補佐

久 保 俊 岳
横 田 晃 弘
土 蔵 郁 代
山 川 龍 一
大久保 克 紀
森 永 奈緒子

<傍聴者>

なし

【開会】

教育総務課長：ただいまから、「第1回大野市通学区域審議会」を開会する。

【教育理念の唱和】

——<大野市教育理念の唱和>——

【委嘱状交付】

——<委員に委嘱状を交付>——

【教育長あいさつ】

本日は、お疲れの中お集まりいただき、お礼申し上げます。福井大学の中森教授におかれては、遠路お越しいいただき、重ねて感謝申し上げます。

今日はこんな話から始めさせていただきたい。昨日の雨だが、皆様の地区やお家はいかがだったか。雨が一日ずれていたら、今日の会議は開催できなかったのではないかと思っている。

昨日は市役所で、災害対策本部を立ち上げて対応していた。一部の地区に避難指示を出させていただき、警戒に当たってきた。災害対策本部でもいろいろな検討がなされたが、自分の一番の関心事が、明日の児童生徒たちの登校はどうしようかということだった。幸い、夕方から夜にかけて早めに警報解除されたのはありがたかったが、やはり赤根川の水位がどんどん上がり、中部縦貫自動車道が大野インターから和泉は通行止めという状況になっていた時にはかなり緊迫していたと思う。早めに小康状態になったので、教育委員会としても校長会と十分相談をし、夕方には明日の登校は通常通りという決定をさせていただいた。子どもたちも保護者の方々も大変不安で、見通しが無いのは申し訳ないので、その日の早いうちに、学校のメールで全保護者へ対応をお知らせした。これからもこのようなことは想定されるので、昨年、校長会と十分検討して、災害時における対応基準を整理した。それを勘案しながら、これからも子どもたちの安心安全に尽くしていきたいと思う。

なぜこのようなことを申し上げたかというと、災害だけに関わらず、毎日子どもたちを安心して預けていただくために、いろんなことに関してしっかり整備をするというのは、学校にとってやらなくてはならない最大の環境整備だと思っているので、こんな話をさせていただいた。

大野市は学校再編を契機に、総合的に教育環境、子育ての整備を進めている。それは校舎改修はもとよりだが、子どもたち主体の学校生活や、いじめや不登校

の防止に挑戦する魅力ある学校づくりや、或いは部活動の地域移行ということである。ただ、環境整備は、やはり市民の皆様にきちんと目に見えて、心に届くものでないと駄目だと思っている。そんな中、昨年度は有終西小学校児童の中学校の通学区域についての検討をしていただいた。今年度は有終東小学校の通学区域についての検討をお願いしたい。

この2つの小学校は、中学校へ進学する時に、ほぼ50年、今のよう形で2つに分かれるという状況が続いている。このこと自体が良い悪いという問題ではない。50年間制度が続いてきた中で、社会情勢はどんどん変わっているので、この機会に一度きちんと議論をして、将来に向けて整理をしておくということは、教育委員会としてやらなくてはならないことだと強く思っている。

結びに、どのような形が良いのかということを、総合的に持続可能な観点からも十分検討していくために、お力添えをいただけるようよろしくお願いしたい。

【委員自己紹介】

――＜委員一人ずつ順番に自己紹介＞――

【会長・副会長選出】

――＜会長に中森委員、副会長に朝日委員を選出＞――

【会長挨拶】

会長：本日は各委員の皆様のご協力をいただき会議を進めていきたいのでよろしくお願いする。

【諮問】

――＜教育長から中森会長へ諮問＞――

【会議録署名人】

会長：本日の会議録署名人は、岸本委員、植村委員にお願いする。

【議事】

会長：1「有終東小学校の現状と諮問に至る経緯」について、事務局の説明をお

願います。

——＜事務局説明＞——

会長：ご意見、ご質問等があれば願います。

委員：1点お願いしたい。有終東小学校の現状の児童数は、資料に記載のとおりで分かるが、もし仮に幸町区や弥生町1区・2区、東中区の児童が有終南小学校に行くことになった場合の児童数の資料を次回までに用意していただきたい。それに加えて、令和8年4月から小山小学校も有終南小学校に行くことになると思うが、その数も含めて相対的な数を一覧でいただきたい。

副会長：有終東小学校、有終南小学校が、現在の場所にできた当時も、この区域分けというのは同じだったのか。私の住んでいる地区は、有終東小学校が現在の場所に出来た時、有終東小学校へ行くことを決められた。私の地区としては、有終南小学校へ行くのも有終東小学校へ行くのも、距離的にあまり変わらない。距離のことをいえば、小学校1年生の子が100メートル遠くなるというのはやはり辛いと思う。その辺りも踏まえた数値の資料があると良いと思う。いつ頃、有終東小学校が現在の所に出来たのか、有終南小学校が現在の所に出来たのか、弥生町1区や弥生町2区が、越美北線の線路を挟んで、なぜ有終南小学校ではなく有終東小学校に行くことになったのかなどの経緯が分かる資料があればお願いしたい。

事務局：こんな資料が欲しいという意見を皆様からいただけるとありがたい。審議を進めるにあたって、こちらで一方的に思っている資料より、皆様が必要と思う資料を準備したいと思うので、要望があれば言っていただきたい。

会長：前回の審議の時には、有終西小学校のPTAからのアンケートなどを参考にさせていただいたが、今回はアンケートをとる予定はあるか。

事務局：先ほどと同じように、審議を進めるにあたって、例えば、保護者の声が聞きたいとか、子どもの声が聞きたいとか、これから小学生になる子どもを持つ保護者の方の意見を伺いたいということを要望していただければ、事務局でアンケートや座談会などを検討したいと思う。

委員：確認だが、諮問の内容は、有終東小学校の児童の通学区域に限定して考えるということか。中学校区は関係ないという認識で良いか。有終東小学校の児童の通学区域を、このままにするか、どこか変更するかという議論と取れば良いか。

事務局：我々としては、あらゆる可能性を排除するつもりはないので、有終東小学校区ではなく、有終東小学校に通う児童、卒業する児童の通学区域という捉え方をしていただきたいと思う。皆様方の議論の中で、小学校区についての議論や、中学校区についての議論をしていただきたいと思います。

教育長：有終東小学校の検討をするのであれば、上庄小学校のことも考えなくてはいけない、阪谷小学校のことも考えなくてはいけない、有終南小学校のこと

も考えなくてはいけない、全体のことを考えなくてはいけないのではないかという議論になると、なかなか意見がまとまらないし、話が大きく広がり過ぎるので、今回は有終東小学校に限定して検討していただきたいというお願いである。昨年と同様に、有終西小学校に限定して検討してほしいという諮問にさせていただいた。

委員：有終西小学校の時とは違うと捉えれば良いか。有終西小学校の場合は、有終西小学校を卒業する児童が進学する中学校の通学区域の考え方についてと記載があったが、今回は、有終東小学校児童の通学区域に限定してという記載になっているので、例えば有終東小学校に通っている児童はすべて陽明中学校に進学することとするというような答申も含めて考えていくのか。前回は有終西小学校区を見直すという議論はなかったと思うが、有終東小学校区の見直しをすることも含めて考えていくのか、その辺りの焦点を絞っておかないと意見がバラバラになってしまうので、確認したい。

事務局：有終西小学校の場合は、有終西小学校を卒業する児童が進学する中学校区に限定して検討するという事で諮問をさせていただいた。今回は、中学校区とか小学校区という記載はしていない。あくまでも有終東小学校児童の通学区域ということなので、小学校区、中学校区、両方含めて検討をお願いできればと考えている。

会長：児童、保護者、それから今後就学される子の保護者へアンケートをとっていただけるか。この審議会が始まったことは、校区の皆さんはご存じなのか。

教育長：有終東小学校のPTA総会で、本年度、有終東小学校の通学区域について検討させていただきたいというお願いをしている。

会長：それでは、アンケートを取ってもあまり混乱はないという感じか。

委員：PTA総会の事前に、その話があるということを伝えていて、かなりの保護者の方が今年度検討があるということをご存じだと思う。アンケートの時にそれほど混乱することはないと思っている。

——＜その他に意見・質問なし＞——

会長：2「審議会のスケジュール」について、事務局の説明をお願いします。

——＜事務局説明＞——

会長：ご意見、ご質問等があればお願いします。

副会長：本日を含めて、6回の審議ということになっているが、もし審議が2回で済んだら、10月は審議会がないと理解すれば良いか。

事務局：審議会が短縮されることは起こり得ると思う。逆に、どうしても審議がまとまらず、追加の審議会をする可能性もないとは言えないが、そうならないようにできるだけ具体的な資料をそろえて、最大のスケジュールが6回ということをお願いしたいと思う。

委員：今回の諮問というのは、どこからか教育委員会への要望があって動き出したものなのか、有終西小学校が変わったという実態を受けて、能動的に教育委員会が動き出したことなのか。これまでも校区の見直しをして欲しいという要望がこの50年の間にあったのか。審議を進めるために、そういう背景のようなものに関する資料や情報は持ち合わせているのか。

教育長：教育委員会としてこの件について検討する必要があると強く思っている。そして、有終西小学校の場合は、PTAの方からいろんな意見の集約もいただいた。ただ、それがあったから教育委員会が腰を上げたという理解はしないでほしい。学校再編の検討委員会が数年前に始まったが、その事業は教育環境検討事業という名前の事業であり、教育環境をしっかりと整備していこうという考え方である。学校再編が進んでいく中で、それに付随する教育環境もしっかり整備していきたい。その一環として、有終西小学校があり有終東小学校があるという理解でお願いしたい。要望としては、一部で、有終東小学校の校区だと思っていなかったとか、近くの学校へ行けないのかというような声はお聞きしていた。そして、そういう声は何年も前からあったと思う。この機会に何らかの方法で、保護者を中心にご意見を伺い、良い形にできたらと考えている。

会長：会議の進め方について、ご理解いただいたということで良いか。

——＜意見・質問なし＞——

会長：3「意見交換」を行う。

委員：東中区は行政区としては上庄地区に入り、学校は有終東小学校ということになっている。上庄地区の中でも、吉区などは有終南小学校に近い。下据は、有終南小学校と上庄小学校に分かれているという線引きが、なぜこのように決められたのか。なぜ有終東小学校の校区をこの線引きで決めたのか、なぜ有終南小学校の校区をこの線引きで決めたのかというような当時の資料があれば知りたい。人口割なのかもしれないが、クランク状況になっている区域を綺麗に線引きしたわけではない中で、なぜこのような線引きになったのか。私の区は距離的にいえば有終東小学校に近いが、中学校区としては開成中学校に行くのだから、小学校は有終南小学校に行くのが良いということになったのか、もしそれに対しての答えがあるなら教えてほしいと思う。

委員：昨年度は有終西小学校を卒業する児童が進学する中学校の通学区域についての諮問だったのに、なぜ今回の有終東小学校に関しては、中学校の通学区域というのが入っていないのか。事務局から、小学校も中学校も両方という説明があったが、話がまとまらないのではないかと思います。審議の回数も3回しかないで、その辺りについて少しお聞きしたいと思う。

事務局：有終西小学校の場合は、卒業した進学先の中学校へほぼ半数に近い人数で分かれているので、小学校の通学区域を変えることが非常に難しいだろうし、

どちらかの中学校に進学するということを考えた方が良いのではないかということになった。もちろんきっかけとして、有終西小学校のPTAの方から、全員で揃って同じ中学校へ進学できないかという趣旨のアンケート調査や、その結果をいただいたということもあった。そのようなことも含め、有終西小学校については、学校の立地や様々なことを考えると、小学校の通学区域を変えるのではなく、中学校に絞って検討しようということになった。有終東小学校については、地理的な条件や、特段、要望が出てきている訳でもないということから、あらゆる可能性を排除せずに検討したいと考えている。

委員：諮問書に、現在有終東小学校では卒業生が開成中学校と陽明中学校に分かれて進学している現状があると記載されているということは、有終西小学校と同様に、同じ中学校に進学できていないということ。大野市が掲げる18年教育、つなぐ教育、子どもたちが途中で離れてしまうのを防ぐための会議だと思っていた。今、あらゆる条件を加味して考えていくとお聞きして、小学校の区域を変更しても、中学校に行って離れ離れになるのならいかなものかと思う。

委員：学校運営協議会で、本校の通学区域について検討されるという話をしたところ、委員から次のような意見があった。小学生保護者のアンケートや、保護者の意見を聞く会を持っていただくのはもちろんだが、小学校入学前の子どもを持つ保護者の方にとっても非常に関心が高く、影響も大きいことなので、就学前の子どもがいる保護者への説明や、意見を聞く会も持ってもらいたい。そして、保護者や子どもたちの意見を聞く機会に、今後何について話し合うかどのような検討をしていくのかを分かっているか、その意見も十分なものではないと思う。おそらく小学校卒業後に進学先が2つに分かれることについての議論がされると思っている保護者が大勢いると思う。対象地区以外の方にとっても大きなことになると思うので、その辺りを事前に説明いただいて意見を集めてもらえると、より皆さんの共通理解が図れて、短い時間で審議が深められると考える。

会長：スケジュールについて確認だが、アンケートをとったり、保護者や就学前の保護者の意見を聞いたりすることになると、第2回目までにということは可能か。それから、共通理解を得るために、何について審議するのかということ、言葉での説明だけでは人によって理解の仕方が変わってくることも十分考えられるので、考え方について整理していただくと良いかと思う。

事務局：今日の審議での意見を十分精査させていただいて、事務局で、資料収集のスケジュールなども検討し、会長、副会長とも相談させていただいて、丁寧に進めたいと思っている。

委員：この審議会は、いろいろな都合もあってこのようなスケジュールになっていると思うが、半年で議論を終結させるというのは非常に難しい部分があるのではないと思う。会長、副会長とよく話し合っていて、本当にこのス

スケジュールで良いか、再度検討していただきたいと思う。

委員：弥生町1区・2区、幸町区、東中区、春日三丁目下区の該当地区が記載されているが、例えば区で見守りをしている方や、その他いろんな人の意見を聞くことが必要かと思う。特に小学生になると、もし小学校が有終東小学校から有終南小学校へ変わるようなことになると、中学校が変わることとはまた少し話が違ってくると思う。いろいろと混乱が起きるかもしれない。該当地区の方の意見なども聞いてみたいと思う。

委員：資料3の地図を見て、弥生町や幸町区の方は、有終南小学校の方が近いと思った。通学区域を変更する場合、有終東小学校だけではなく、有終東小学校に幼稚園児や保育園児が入学する時に、ここからは有終東小学校で、ここからは有終南小学校だと分ける話を単純にここで出来るのか疑問である。いろんな方を交えないと、この審議会だけで決めるのは少し厳しいのではないかなと思う。

委員：この審議会があるということで、今朝、春日三丁目下区の集団登校に行ってきた。越前信用金庫春日支店が集合場所になっている。道を1本挟んだ向こう側が弥生町で、こちら側はすごく近いと思った。春日支店からは歩いて大体5分、安全面も考えると、こぶし通り一本挟めば後はずっと歩道があるという状況である。校区というのはどこかで線を引かないと難しいものがあるので、その辺りは致し方がないと思う。公的に話は聞いたことはないが、実際にそこに住んでいる方や、地域の方の意見というのはすごく大切だと考えている。中学校に行く時に分かれてしまう校区の方たちが、小学校区も含めてどのように考えているのか、議論や合意が必要だと思う。

委員：中学校として、子どもたちが専門教科の教員を揃えた状態で十分に学べるような学校規模になるように考えていきたい。

中学校に来た時の小学生の様子について少し話させていただく。今年は上庄中学校との統合があり、開成中学校には小山小学校、有終南小学校、有終西小学校、有終東小学校、上庄小学校と5つの小学校から児童が集まって1つの中学校になっている。特にどこの小学校だから寂しい思いをすとか、仲良くなれないということは全くなく、1年生は2ヶ月あまり過ぎたが、まずはお互いのことを知り合おうと、いろいろなコミュニケーションをとってどんどん仲良くなっている。小学校を全部同じ中学校にということであれば、中学校の境界線を変えないのであれば、資料に記載された該当地区について考えていくことになると思う。

会長：委員の意見とすれば、やはり地域の方や保護者の方と、アンケートや直接の対面、対話を通して話を伺いながら進めたいということである。スケジュールとして見通しを持ちたいと思うが、7月から8月にかけて第2回目の審議会という予定ではあるが、この時期の開催は可能か。

事務局：2回目の開催を少し遅らせるというのも1つの方法ではある。それから、

アンケート、直接対話など、やり方はいろいろあると思うが、次回までに全てではなく、例えばアンケート調査だけを先に実施して集約したものを準備して、3回目の開催までに、児童の保護者や未就学児の保護者や地区の住民の方と話す機会を持つことにするなど、その辺りのスケジュールは少し検討させていただきたい。

委員：児童がどのように思っているかが一番大切だと思う。皆さん方からいろいろな意見があるように、保護者の方、地域の方、様々な方がおられるので、駆け足で進めるのではなく、スケジュールに余裕を持って、いろいろな人の意見を聞いた上で開催した方が良いのではないかと思う。

会長：今後どのように進んでいくかということにもよるが、期限は一応年度末までということか。

事務局：今のところ、年度内には教育委員会としての方針を決定したいと考えている。この審議会から答申をいただいて、それを受けて教育委員会で最終方針を決定するので、それが出来上がるのが年度末と考えている。

会長：以上で議事を終了する。

【閉会】

副会長：本日は第1回目の審議にお集まりいただき、感謝申し上げます。有終東小学校の通学区域について、事務局から資料を元に説明いただいたが、これからも資料が増えてくると思うので、しっかりと検討していき、答申が出せるように皆様方にご協力をよろしくお願いします。